

住信為替ニュース

THE SUMITOMO TRUST & BANKING CO., LTD FX NEWS

第2104号

2012年03月05日（月曜日）

《 Putin wins but..... 》

世界が注目していたロシアの大統領選挙では、予想通りプーチン首相が全投票者の6割を超える票を集めて一回目の投票での勝利を確実にしました。同氏は開票率のまだ低い段階で早々にクレムリン近くの広場に姿を現し、大群衆を前にして「我々は開かれた公正な、清い選挙で勝利した」と涙ながらに勝利宣言しました。

もしその数字が不正なきものと仮定したら、彼の勝利は「混乱した90年代に戻りたくない」というロシアの一般大衆の気持ちを反映したものと言えるでしょう。90年代には、例えばサンクトペテルブルクでは路上強盗、殺人など何でもありであり、ロシア全体が不穏当な社会になっていたと昨年のシベリア鉄道・サンクトペテルブルクの旅 (<http://www.ycaster.com/chat/2011russia.html>) の際に聞きましたし、実際に給料の未払い、激しいインフレなどで一般大衆の生活も破壊されていた。今でもロシアの一般大衆は、「強い指導者がいなくなった時のロシア」を恐れたと言うことになる。今回の選挙では、プーチンに代わりうる有力な候補がいなかった。

反プーチンの運動の広まりは、先の議会選挙での不正を切っ掛けに「その強い指導者＝プーチン」が、“ロシアの改革”の邪魔になっている、だから「引っ込め」という運動でした。具体的には、「何か新しいことをしようとしたときに（起業や土地使用が必要なプロジェクトなど）、汚職を行う官僚が跋扈し、そうした連中が富を独占する社会」を変えると言うことでした。実際にロシアに行ってみると、道路は世界の高級車の展示会のようになっている。実感として「富が蓄積している」と感じる事が出来る。

しかし世界に通じる製造業がなく、「ロシア人はソフトウェア産業に向いている」と言われても大きな雇用を生み出している関連企業も少ない中で、ロシアの経済を支えているのはエネルギーのみと言っても過言ではない。しかしロシアに行くと、かなりの数の人が確かに豊かになっている。エネルギー産業に携わっている人はそれほど多くない筈なのに。それには仕掛けがある。例えば、貿易関連の仕事で政府に申請に行くと何百もの書類を用意しなければならない。そんなことは出来ないのでコンサルタントを雇う。それがまた高額だと言うのです。役人に対する賄賂込みだから高くなる。その段階で、コンサルタントとその相方になっている役人の懐に大きなお金が入る。その連鎖だとロシアの人達が言っていた。

一方で「何か自分で行動を起こす」ことをしていないロシアの大部分の人達にとっては、「90年代よりはましな、そして安定した生活」が保障されているのが今です。貧富の格差

は拡大しても「90年代よりはまし」「(ソ連崩壊後の)90年代の混乱を収めたのは強いプーチン」という気持ちは今でも強い。よってプーチンが勝利したと考えるのが自然です。問題は今後です。反プーチン派は大規模な抗議集会を予定しているという。しかし先の議会選挙のような「明らかな不正」が見つからなければ、一端抗議運動は下火になる可能性が強いと考えます。

その間にプーチンが国民の間に癖壁とした感情が強まっている今の官僚機構の不正蔓延状況を是正できるかです。彼の支配機構の中で重要な役割を果たしているのは出身母体であるKGBの部下達です。結局プーチンが国内の反対運動を押さえるには、依然として強い「官の支配」を打破するか、それを合理的かつ効率的、そして「清い」ものに出来るかどうかにかかっていると見える。プーチンといえども、自分の出身母体の部下達が中心的役割を担っている官僚機構を、今後6年間に改革するのはなかなか難しいでしょう。

よって筆者は、一端収まるであろう「反プーチン運動」は社会の閉息感の中で次回の大統領選挙に向けて再び高まると予想しているし、多くのメディアが予想している以上にプーチンが次の選挙で選ばれる確率は低いと考えている。

《 Dollar strengthen but 》

外国為替市場では、円に対するドルの強さが顕著になってきました。ドルは先週はユーロに対しても強く、そのユーロは円に対して弱かった。この週末の日経関連メディア（日経本紙、ヴェリタス）でも「ドル高・円安」が取り上げられ、その背景について「シカゴの先物市場で円の先安を示すポジションの変化が進行していること」「日本の対外収支の先行きを見ても、経常収支全体が赤になる展開が予想される」などが強調されていたように思う。筆者もこうした点は重要な事だと思う。ただし日米の金利差はまだ0.2~0.3%で非常に小さい。結局、

1. 今の金利差より日米経済の景況感の差（アメリカ>日本）が大きいこと
2. 米FRBが新たな金融緩和をしても日銀のそれに対抗できる緩和をするとの確信が強まった
3. 70円台の後半まで進行した円高に対する行き過ぎ感

にあるように思う。ということは、アメリカの景況感に黄信号が灯ったとき、日銀の緩和姿勢が変わったとき、そして円高の修正が当面の目標に接近したときには、ドルが再び円に対して下げる局面があると考えている。いずれにせよ、ドル高は一直線では進まない。もっとも記憶に残っているドルの大きな反発局面はカーターショックからレーガンの第一期だが、その時とは経済環境は大きく違う。日本の対外収支動向や金利動向を見ながらの展開となろう。しかし全体的に言うと、ドルは対円に関してはもうちょっと上を試したがっているように思える。

一方で欧州が置かれた状況は相変わらず厳しい。欧州連合（EU）の統計機関であるユーロスタット統計局が1日に発表した今年1月のユーロ圏17カ国の失業率（季節調整済み）は、昨年12月から0・1ポイント増の10・7%になった。単一通貨ユーロ導入後の最悪水準が続いており、景気後退入りを受けて一層の悪化が懸念される。圏内で失業率が最も高いのはスペインで23・3%。ポルトガル、アイルランドがともに14・8%、イタリアは9・2%と、重債務国での失業率の高さが目立つ。フランスも10・0%に上った。中でも若年層の失業率は平均の二倍に達している国もある。

この問題に関しては、この週末に興味深い記事が欧米の新聞に何本も載っていた。例えばニューヨーク・タイムズに載っていた「Economic Disparities With Germany Shapes a French Election」という記事は、SÉLESTATとEmmendingenという国境を挟んだフランス側とドイツ側の町の失業率の差を入り口に両国間で広がる経済格差に焦点を当て、これがフランスの大統領選挙でも「ドイツ方式を入れるかどうか」の争点になっていると報じている。フランスの焦りは、輸出市場における同国シェアの着実な縮小にあり、その為にドイツにある「apprenticeship」（徒弟制度）を導入しようという動きを示すサルコジ陣営に対して、オランド陣営が反対との立場を表明する、という展開。

一方で、欧州の特に南部諸国からの「海外への出稼ぎの増加」を伝える報道も多い。中でも旧植民地への人の移動が増えてきている。景況悪化の中で進む財政再建の動きは、やり次第では一段と景気を悪化させ、雇用の場を減らす。欧州の苦境は続く。

今週の主な予定は以下の通り。

- | | |
|---------|---|
| 3月5日（月） | 米1月製造業受注
米2月ISM非製造業景気指数
フィッシャー米ダラス連銀総裁が「経済情勢」
について講演（ダラス）
エバンズ米シカゴ連銀総裁が講演 |
| 3月6日（火） | 豪金融政策委員会
ユーロ圏10-12月期GDP
ブラジル10-12月期GDP |
| 3月7日（水） | 1月景気動向指数
豪10-12月期GDP
米2月ADP雇用統計
ブラジル金融政策委員会
ニュージーランド金融政策委員会
休場／タイ |
| 3月8日（木） | 10-12月期GDP（2次速報）
2月景気ウォッチャー調査 |

1月国際収支
韓国金融政策委員会
ECB理事会
米新規失業保険申請件数
インドネシア金融政策委員会
休場／インド
3月9日（金）
米2月雇用統計
米1月貿易収支
米1月卸売在庫

《 have a nice week 》

週末は如何でしたか。春の気配はあちこちにあります。日曜日に新宿御苑に行ったら、大木土門から入った玉藻池の近くでは既に梅が咲き始めていましたし、日差しがあるときはその強さに驚きます。しかしこの週末のようにまだまだ肌寒い日がある。インフルエンザはピークを過ぎたようですが、まだまだ寒い。体調にはお気を付け下さい。

それはそうと、ここ数日で2本映画を見ました。一本は「惑星が地球にぶつかるときにどう迎えるか」をテーマにした「メランコリア」という映画でしたが、映画的には面白かったが、あまり気持ちを入れることは出来なかった。そういう事態はまだ予想されていませんから。やはりしっかり見る事が出来、感動したのは「はやぶさ 遙かなる帰還」でした。

日曜日に「今日は」と思って、朝一番に新宿で見たのです。私が見て分かる範囲でも、非常に原作、というか実際にあったことに忠実に作っている。笑ったのは、先週相模原の宇宙研で一日ロケ（はやぶさとその後継機である「はやぶさ2」が対象）だったのですが、そこで私たちが昼食を食べた場所（職員食堂）で、私たちが食べたシンプルな定食を俳優達も食べていました。彼らもロケを長く打ったんでしょう。

建物の入り口や入った場所が何回か出てきましたが、そこも我々がオープニングを撮ったり、エンディングで使った場所だった。イオン・エンジンの説明は不足していたと思うが、ターゲット・マーカーやスイング・バイの話は映画の中でもきちっと出てきていました。子供が「イトカワ」の模型にラッコの絵を描いたのは、「ナイスなやり方」と思いました。

打ち上げ当初や着陸の時点での人の多さに比べての「47日間の行方不明」になった際の管制室の人の少なさが、このプロジェクトの通った道の多難さをよく表していると思う。文部省の担当者に「太陽系の起源を調べて何になるの...」と言わせているところもうまい。私としては、「はやぶさ」プロジェクトに絡んだ民間企業の姿が非常にうまく出ていることが面白かった。イオン・エンジンを実際に作ったのは映画では NEC という事になっていて、「そうなのか」と思いましたが、その開発担当者（ちょっと頼りない感じで描か

れていた)が2回反対を押し切られる場面は、ちょっとイライラ(もっと頭を使えよ、と)しました。しかし民間企業の立場が良く出ていると思いました。

NECに限らず、山崎努が演じたカプセルを作った中小企業の状況もよく描かれていたし、その娘が朝日新聞で宇宙担当というのも「本当かな」と思いながら見ていました。本当なら結構凄い確率の話です。映画の最後にプロジェクトの二人の主役が道で握手をする場面があり、「ここはいい場面だな.....」と思いました。無駄な言葉なく。その川口さん(映画上は山口さん)は、はやぶさ2について「私がやれば一番良いんですが、次の世代の育成を」と言っていたのを思い出しました。「2」のプロジェクトリーダーは吉川さんです。

映画の中でも「研究生活の中で、私たちは二つか三つの衛星につきあえればいいんですよ」と渡辺謙に言わせている。「はやぶさ」のプロジェクトが立ち上がったのが1980年代ですからね。「ボロをまとったマリリン・モンロー」は笑った。本当にそう言ったんでしょう。「1」がそうだったとすると、「2」は次年度の予算をまた半分に削られて「一体何を着るの」と思いました。「1」でも「ボロ」なら、もう着るものはないのでは。今後「2」が持ち帰る(サンプル・リターン)ものは「水」であり「有機体」です。いまや「はやぶさ」は日本人の夢です。予算をつけてやって欲しい、と思いました。

それでは皆さんには良い一週間を。

《当「ニュース」は住信基礎研究所首席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したものです。正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》